

平成20年第4回景況調査結果について

2008年12月 1日
三重県農水商工部
(財)三重県産業支援センター

I 調査要領

1. 調査時点：2008年11月（下旬）
2. 調査対象：県内全域の企業1,000社
3. 調査方法：FAX及びインターネットによるアンケート調査
4. 回答状況：341社（有効回答率 34.1%）
5. 調査企業の産業、従業員数、地域別（県民センター別）内訳

【産業別】

【従業員規模別】

	建設業	製造業	運輸・ 通信業	卸・ 小売業	金融・ 保険業	サービ ス業	合計	～29人	30～ 99人	100 人～	合計
対象企業数	86	287	65	267	22	273	1,000	530	217	253	1,000
回答企業数	44	98	23	81	15	80	341	144	85	112	341
構成比 (%)	12.9	28.7	6.7	23.8	4.4	23.5	100.0	42.2	24.9	32.8	100.0

【県民センター別】

	桑名	四日市	鈴鹿	津	松阪	伊勢	伊賀	尾鷲	熊野	合計
対象企業数	111	224	121	152	116	132	90	29	25	1,000
回答企業数	35	79	39	52	43	43	28	13	9	341
構成比 (%)	10.3	23.2	11.4	15.2	12.6	12.6	8.2	3.8	2.6	100.0

(注) 構成比等 (%) については、小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

- (注) 桑名県民センター（桑名市・いなべ市・木曾岬町・東員町）
 四日市県民センター（四日市市・菰野町・朝日町・川越町）
 鈴鹿県民センター（鈴鹿市・亀山市）
 津県民センター（津市）
 松阪県民センター（松阪市・多気町・明和町・大台町）
 伊勢県民センター（伊勢市・鳥羽市・志摩市・玉城町・南伊勢町・度会町・大紀町）
 伊賀県民センター（伊賀市・名張市）
 尾鷲県民センター（尾鷲市・紀北町）
 熊野県民センター（熊野市・御浜町・紀宝町）

※平成20年10月31日現在

II 概要 (主な調査項目のD I値の推移)

1. 景況感

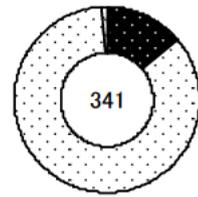
今期の県内景気は「良い」0.3%、「ふつう」

13.5%、「悪い」85.3%となっています。

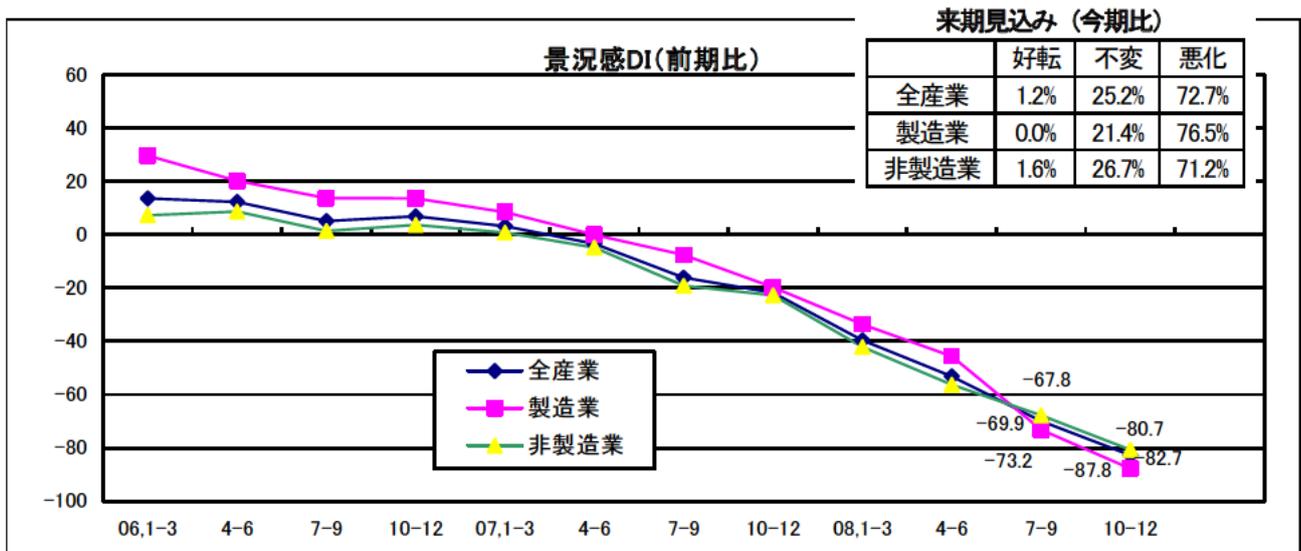
景況感D I (前期比) は全産業でマイナス82.7ポイントと前回より12.8ポイント悪化しました。

また、来期の見込み(今期比)は、全産業で「悪化」が「好転」を大きく上回り、前回調査よりもその差が広がっています。

今期の景況感



■ 良い	0.3%
■ ふつう	13.5%
□ 悪い	85.3%
□ 無回答	0.9%

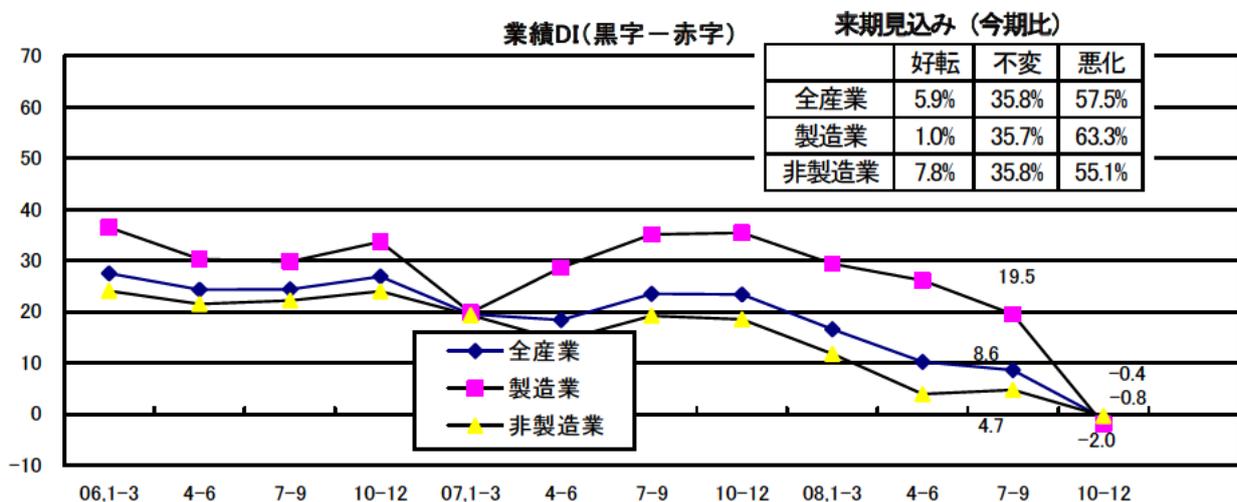


景況感D I = 前期比で「好転」とする企業の割合から「悪化」とする企業の割合を引いた値

2. 業績

今期の業況D I (利益状況) は全産業でマイナス0.8ポイントと前回より10.2ポイント悪化しました。「黒字」とする企業の割合が「赤字」とする企業の割合が今回の調査では、マイナスとなりました。

来期の見込み(今期比)は、全産業で「悪化」が「好転」を上回り、その差が51.6と広がりました。



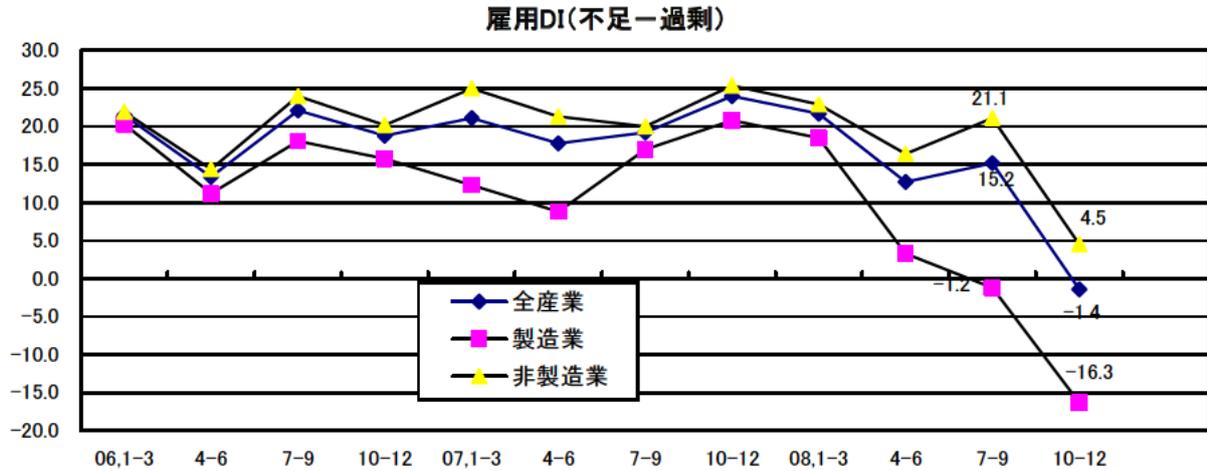
業績DI = 今期の水準について「黒字」とする企業の割合から「赤字」とする企業の割合を引いた値

3. 雇用

雇用DIは全産業でマイナス1.4ポイントと前回より16.6ポイント悪化し、マイナスとなりました。

雇用状態が「過剰」とする企業の割合が初めて不足を上回りました。

しかし、非製造業においては、不足となっています。



雇用DI = 今期の水準について「不足」とする企業の割合から「過剰」とする企業の割合を引いた値

4. 要約

今期の県内企業の景況は、景況感DIは前回は下回り7期連続のマイナスとなりました。業績DIは全産業において前回は下回り、初めてマイナスとなりました。雇用DIは、全産業でも労働力の過剰感を示し、製造業では、前回調査時より過剰感が増しています。

5. 産業別

全産業 (回答341社)

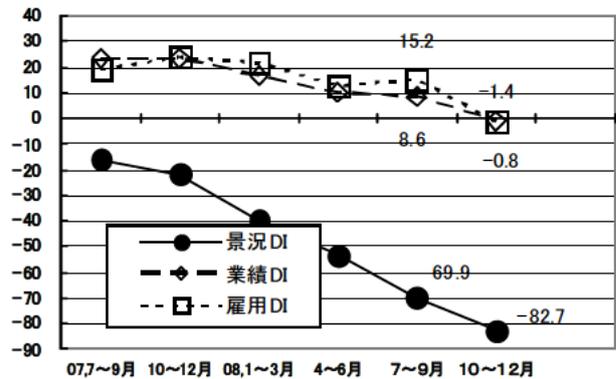
景況感はさらに悪化し、7期連続マイナス。
業績、雇用も悪化。

景況感DI (前期比) は、全産業でマイナス82.7ポイントとなり、前回より12.8ポイント悪化しました。

また、業績DIはマイナス0.8ポイントとなり、前回より9.4ポイント悪化しました。

雇用DIはマイナス1.4ポイントとなり、前回からマイナス16.6ポイント悪化しました。

全産業の主要DI 推移



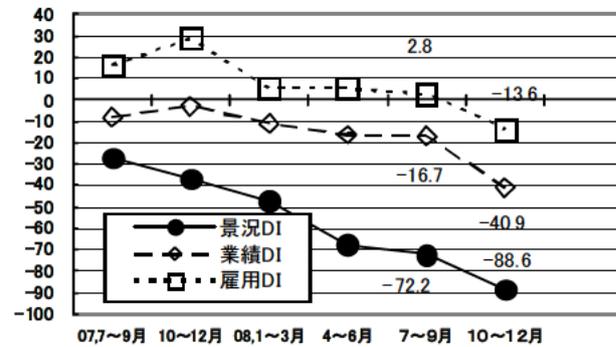
建設業 (回答44社)

景況感はさらに悪化し、マイナスが続く。
業績、雇用も悪化。

景況感DI (前期比) は、建設業でマイナス88.6ポイントとなり、前回より16.4ポイント悪化しました。また、業績DIはマイナス40.9ポイントとなり、前回より24.2ポイント悪化しました。

雇用DIはマイナス13.6ポイントで、前回より16.4ポイント悪化しました。

建設業の主要DI 推移



製造業 (回答98社)

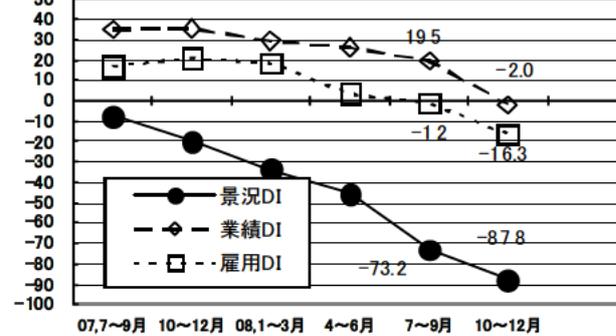
景況感はさらに悪化し、マイナスが続く。
業績、雇用も悪化。

景況感DI (前期比) は、製造業でマイナス87.8ポイントとなり、前回より14.6ポイント悪化しました。

また、業績DIはマイナス2.0ポイントとなり、前回より21.5ポイント悪化しました。

雇用DIはマイナス16.3ポイントとなり、前回より15.1ポイント悪化しました。

製造業の主要DI 推移



運輸・通信業 (回答23社)

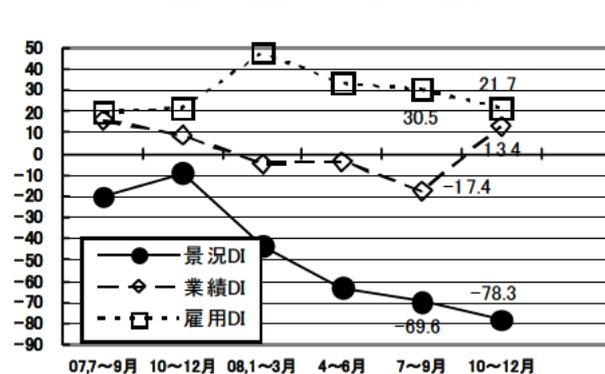
景況感はさらに悪化。業績は前回調査より好転するが、雇用は悪化する。

景況感DI (前期比) は、運輸・通信業でマイナス78.3ポイントとなり、前回より8.7ポイント悪化しました。

また、業績DIはプラス13.4ポイントとなり、前回より30.8ポイント好転しました。

雇用DIはプラス21.7ポイントとなり、前回より8.8ポイント下回りました。

運輸・通信業の主要DI 推移



卸・小売業 (回答81社)

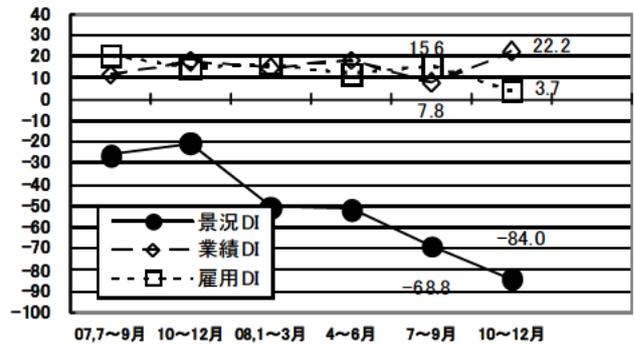
景況感は引き続き悪化。業績は今回の調査では好転する。雇用は悪化する。

景況感DI (前期比) は、卸・小売業でマイナス84.0ポイントとなり、前回より15.2ポイント悪化しました。

また、業績DIはプラス22.2ポイントとなり、前回より14.4ポイント上回りました。

雇用DIはプラス3.7ポイントとなり、前回より11.9ポイント下回りました。

卸・小売業の主要DI推移



金融・保険業 (回答15社)

景況感はさらに悪化が続く。

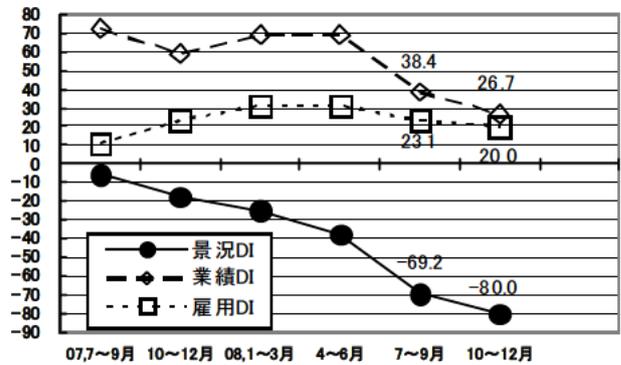
業績、雇用も悪化する。

景況感DI (前期比) は、金融・保険業でマイナス80.0ポイントとなり、前回より10.8ポイント悪化しました。

また、業績DIはプラス26.7ポイントとなり、前回より11.7下回りました。

雇用DIはプラス20.0ポイントとなり、前回より、3.1ポイント下回りました。

金融・保険業の主要DI推移



サービス業 (回答84社)

景況感はさらに悪化が続く。

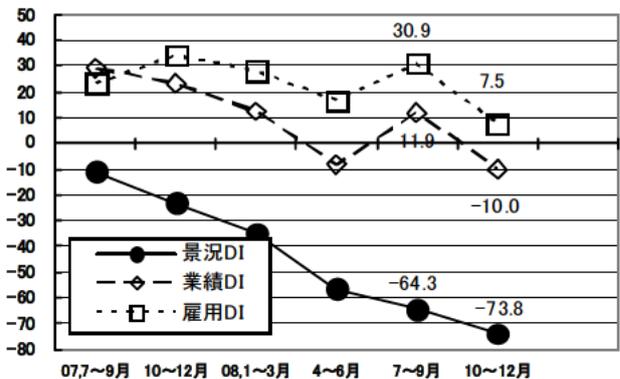
業績は前回の好転から悪化し、雇用も悪化する。

景況感DI (前期比) は、サービス業でマイナス73.8ポイントとなり、前回より9.5ポイント悪化しました。

また、業績DIはマイナス10.0ポイントとなり、前回から21.9ポイント大幅に悪化しました。

雇用DIはプラス7.5ポイントとなり、前回より23.4ポイント下回りました。

サービス業の主要DI推移



景況感DI = 前期比で「好転」とする企業の割合から「悪化」とする企業の割合を引いた値

業績DI = 今期の水準について「黒字」とする企業の割合から「赤字」とする企業の割合を引いた値

雇用DI = 今期の水準について「不足」とする企業の割合から「過剰」とする企業の割合を引いた値

※ 前期=2008年4~6月 今期=2008年7~9月 来期=2008年10~12月

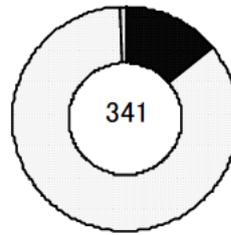
III 県民センター別の主要DI

	桑名	四日市	鈴鹿	津	松阪	伊勢	伊賀	尾鷲	熊野	全体
今期景況感DI	-88.6	-86.1	-79.5	-80.8	-79.1	-81.4	-82.1	-84.6	-77.8	-82.7
前期 //	-71.1	-64.3	-83.3	-63.0	-77.5	-62.5	-73.1	-60.0	-66.7	-69.2
今期業績DI	-17.2	20.3	-5.1	9.6	-16.2	-18.6	-7.1	23.1	-22.2	-0.8
前期 //	13.1	25.8	8.4	32.6	-30.0	10.0	-11.6	-10.0	-22.2	8.6
今期雇用DI	-11.5	3.8	-7.7	9.7	-11.6	-2.3	-7.2	15.2	0.0	-1.4
前期 //	18.4	10.0	8.3	17.4	17.5	27.5	3.8	10.0	33.3	15.2

IV全調査項目の結果詳細

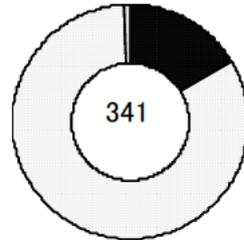
1. 景気

(1) 今期の県内景気については、「良い」0.3%(1社)、「ふつう」13.5%(46社)、「悪い」85.3%(291社)となっています。



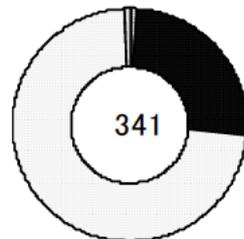
■良い	0.3%
■ふつう	13.5%
□悪い	85.3%
□無回答	0.9%

(2) 前期と比べた今期の県内景気については、「好転」0.0%(0社)、「不変」16.4%(56社)、「悪化」82.7%(282社)となっています。



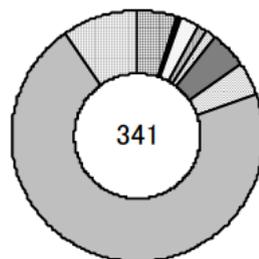
■好転	0.0%
■不変	16.4%
□悪化	82.7%
□無回答	0.9%

(3) 今期と比べた来期の県内景気については、「好転」1.2%(4社)、「不変」25.2%(86社)、「悪化」72.7%(248社)となっています。



■好転	1.2%
■不変	25.2%
□悪化	72.7%
□無回答	0.9%

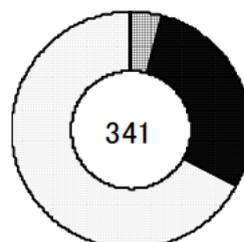
(4) 国内景気の回復時期については、「2009年10月以降」が71.0%(242社)でもっとも多く、次いで「2009年4～6月」が4.7%(16社)、「2009年7～9月」が4.1%(14社)の順となっています。



■2007年12月以前	5.0%
■2008年1～3月	0.6%
□2008年4～6月	2.3%
□2008年7～9月	0.0%
■2008年10～12月	1.2%
□2009年1～3月	1.5%
■2009年4～6月	4.7%
□2009年7～9月	4.1%
■2009年10月以降	71.0%
□無回答	9.7%

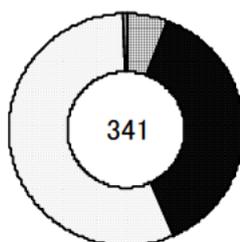
2. 業況

(1) 今期の業況については、「良い」4.1%(14社)、「ふつう」28.7%(98社)、「悪い」66.9%(228社)となっています。



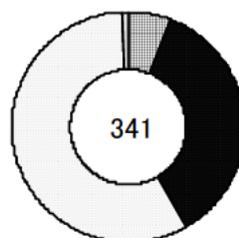
■良い	4.1%
■ふつう	28.7%
□悪い	66.9%
□無回答	0.3%

(2) 前期と比べた今期の業況については、「好転」5.9% (20社)、「不変」37.5% (128社)、「悪化」56.3% (192社) となっています。



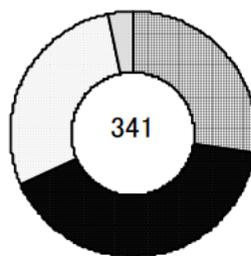
■好転	5.9%
■不変	37.5%
□悪化	56.3%
□無回答	0.3%

(3) 今期と比べた来期の業況見込みについては、「好転」5.9% (20社)、「不変」35.8% (122社)、「悪化」57.5% (196社) となっています。



■好転	5.9%
■不変	35.8%
□悪化	57.5%
□無回答	0.9%

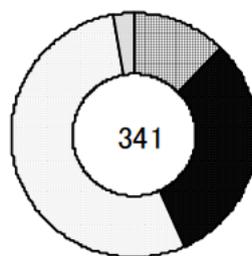
(4) 今期の利益状況については、「黒字」27.6% (94社)、「収支均衡」40.8% (139社)、「赤字」28.4% (97社) となっています。



■黒字	27.6%
■収支均衡	40.8%
□赤字	28.4%
□無回答	3.2%

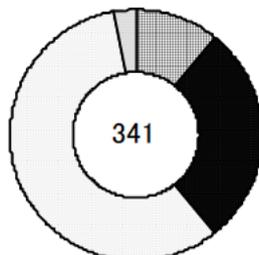
3. 売上高

(1) 売上高の前期比較については、「増加」12.6% (43社)、「不変」30.8% (105社)、「減少」54.0% (184社) となっています。



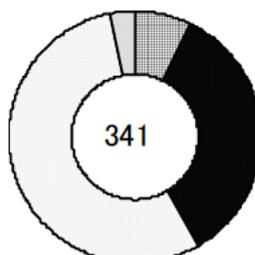
■増加	12.6%
■不変	30.8%
□減少	54.0%
□無回答	2.6%

(2) 売上高の前年同期比較については、「増加」10.9% (37社)、「不変」28.4% (97社)、「減少」58.1% (198社) となっています。



■増加	10.9%
■不変	28.4%
□減少	58.1%
□無回答	2.6%

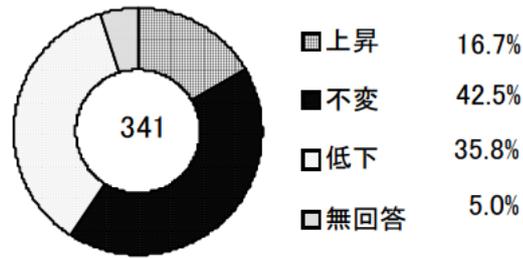
(3) 売上高の来期見込みについては、「増加」7.3% (25社)、「不変」34.3% (117社)、「減少」55.4% (189社) となっています。



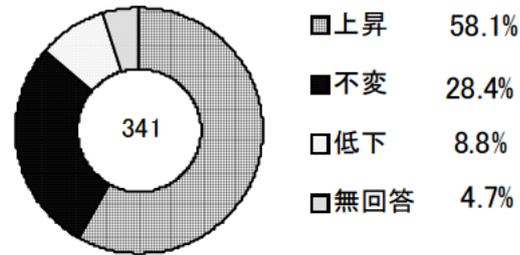
■増加	7.3%
■不変	34.3%
□減少	55.4%
□無回答	2.9%

4. 価格

(1) 今期の販売価格・受注単価については、「上昇」16.7% (57社)、「不変」42.5% (145社)、「低下」35.8% (122社) となっています。



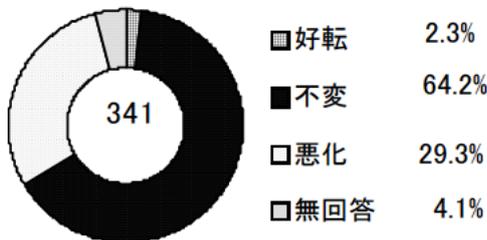
(2) 今期の仕入価格 (原材料・商品) については、「上昇」58.1% (198社)、「不変」28.4% (97社)、「低下」8.8% (30社) となっています。



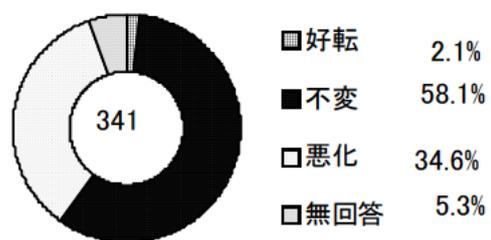
5. 資金繰り

(1)・(2) の資金繰りについては、今期が64.2% (219社)、来期も58.1% (198社) の企業が「不変」としており、今期は「好転」が2.3% (8社)、「悪化」が29.3% (100社)、来期は「好転」が2.1% (7社)、「悪化」が34.6% (118社) と、今期・来期とも「悪化」が「好転」を大きく上回っています。

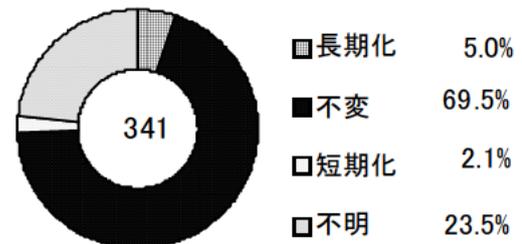
今期資金繰り (前期比)



来期資金繰り (今期比)

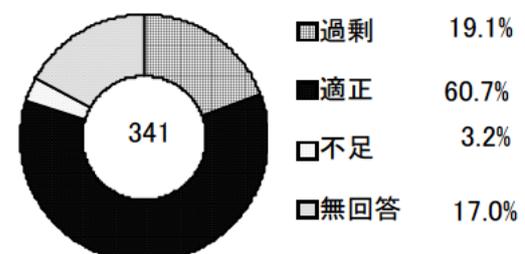


(3) 受取手形の期間は、「長期化」5.0% (17社)、「不変」69.5% (237社)、「短期化」2.1% (7社) となっています。



6. 製品 (商品)・原材料在庫

現在の製品在庫状況については、「過剰」19.1% (65社)、「適正」60.7% (207社)、「不足」3.2% (11社) となっています。



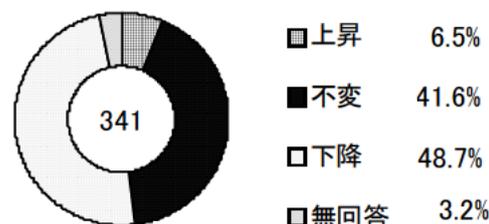
7. 設備投資意欲

〔設備投資意欲〕

(1) 前期と比べた今期の設備投資意欲については、「上昇」7.0% (24社)、「不変」42.5% (145社)、「下降」47.8% (163社) となっています。



(2) 今期と比べた来期の設備投資意欲は、「上昇」6.5% (22社)、「不変」41.6% (142社)、「下降」48.7% (166社) となっています。

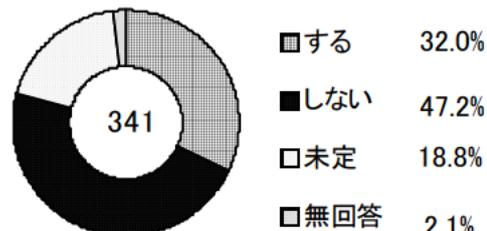


〔設備投資状況〕

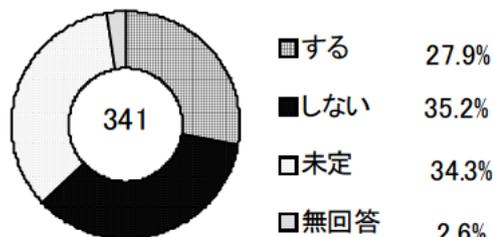
(3) 平成19年度下半期 (2007年10月～2008年3月) と比べた平成20年度下半期 (2008年10月～2009年3月) の設備投資計画額は、「増加」7.3% (25社)、「不変」39.3% (134社)、「減少」49.9% (170社) となっています。



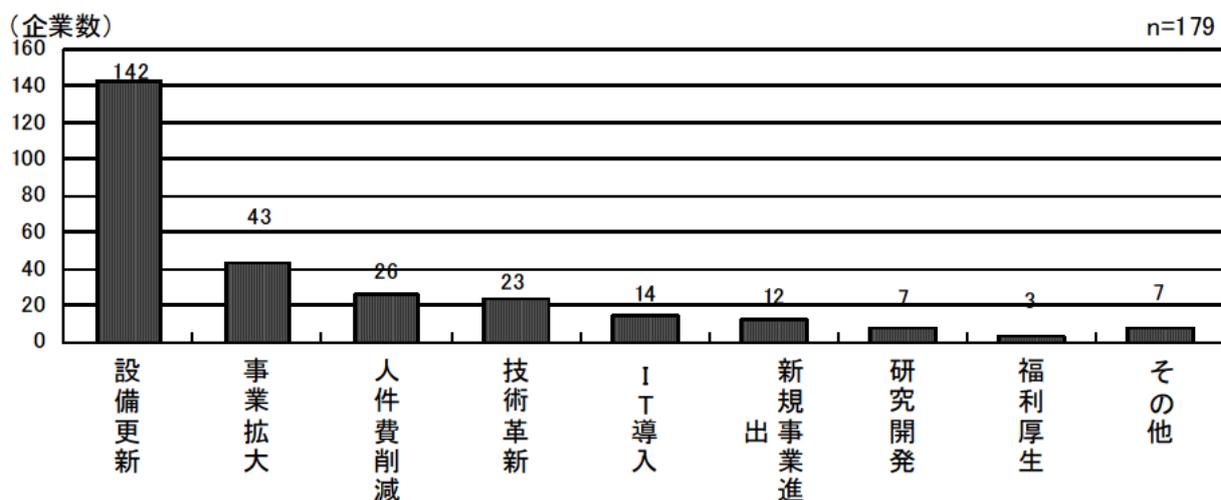
(4) 今期の設備投資予定は、「する」32.0% (109社)、「しない」47.2% (161社)、「未定」18.8% (64社) となっています。



(5) 来期の設備投資予定は、「する」27.9% (95社)、「しない」35.2% (120社)、「未定」34.3% (117社) となっています。

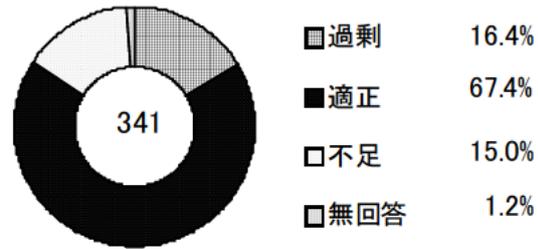


(6) 設備投資の主目的は、「設備更新」41.6% (142社)、「事業拡大」12.6% (43社) の順となっています。(複数回答可)

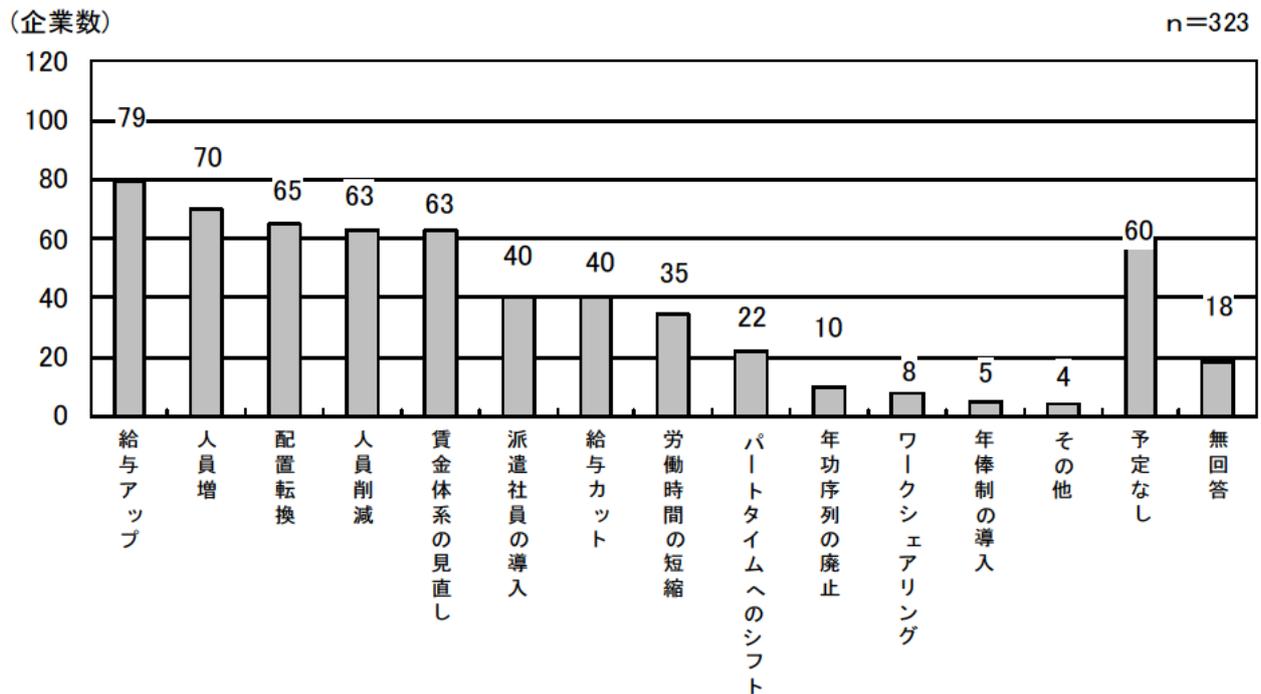


8. 雇用状態

(1) 今期の雇用状態については、「過剰」16.4% (56社)、「適正」67.4% (230社)、「不足」15.0% (51社)となっています。



(2) 過去1年に行った、あるいは行う予定の雇用問題対策は、「給与アップ」23.2% (79社)、「人員増」20.5% (70社)、「配置転換」が19.1% (65社)の順となっています。(複数回答可)



9. 原油高による影響

(1) 石油製品の価格上昇による影響について

理由	大きく影響があった	多少影響があった	ほとんど影響がない	全くない	わからない	不明
企業数	152社	150社	27社	2社	6社	4社
率	44.6%	44.0%	7.9%	0.6%	1.8%	1.2%

(2) 石油製品の価格上昇で影響を受けた割合が高い順

理由	車両用燃料の価格	車両を除く動力用燃料の価格	仕入れ商品・原料の価格	包装容器等の価格	光熱用燃料の価格	電気・ガス料金
企業数	247社	76社	211社	50社	47社	77社
率	72.4%	22.3%	61.9%	14.7%	13.8%	22.6%

理由	その他石油製品の価格	その他	不明
企業数	52社	8社	14社
率	15.2%	2.3%	4.1%

(3) 石油製品等の高騰で行った対策

理由	販売価格への転嫁	経費の抑制	代替品の検討	省エネの強化	投資の抑制	販売数量の加減
企業数	105社	205社	33社	108社	31社	4社
率	30.8%	60.1%	9.7%	31.7%	9.1%	1.2%
理由	していない	その他	不明			
企業数	48社	3社	12社			
率	14.1%	0.9%	3.5%			

(4) 原油、石油製品等の価格上昇分の販売価格への転嫁

理由	転嫁した	転嫁を検討・交渉中である	転嫁できない	転嫁の必要がない	不明
企業数	78社	57社	157社	30社	19社
率	22.9%	16.7%	46.0%	8.8%	5.6%

(5) 価格上昇分を販売価格に転嫁した割合

理由	20%以下	21~50%	51~80%	81~100%	不明
企業数	53社	18社	10社	10社	250社
率	15.5%	5.3%	2.9%	2.9%	73.3%

(6) 販売価格に転嫁できない理由

理由	同業者との価格競争が激しい	販売先との交渉が困難	価格変更を随時行えない	輸送費など間接経費に影響	不明
企業数	75社	25社	33社	20社	188社
率	22.0%	7.3%	9.7%	5.9%	55.1%

(7) 石油製品の高騰が続く場合の対応策

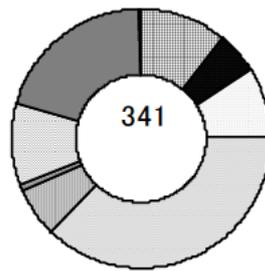
理由	販売価格への転嫁	経費の抑制	代替品の検討	省エネの強化	投資の抑制
企業数	137社	212社	43社	117社	32社
率	40.2%	62.2%	12.6%	34.3%	9.4%

理由	販売数量の加減	仕入れ先の変更	事業規模の拡大	事業規模の縮小	不採算部門の整理
企業数	6社	48社	9社	20社	36社
率	1.8%	14.1%	2.6%	5.9%	10.6%

理由	運転資金の追加調整	原料調達のコスト削減	その他	不明	—
企業数	16社	5社	3社	58社	—
率	4.7%	1.5%	0.9%	17.0%	—

10. 冬季のボーナス

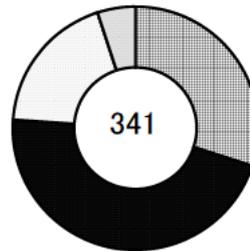
冬のボーナスの支給見込みについては、前年と「ほぼ同額」37.5% (128社)、「未定」20.2% (69社)、「10%超のダウン」10.9% (37社)の順となっています。



10%超のダウン	10.9%
6~10%のダウン	5.3%
1~5%のダウン	8.5%
ほぼ同額	37.5%
1~5%のアップ	6.2%
6~10%のアップ	0.9%
10%超のアップ	0.0%
支給無し	10.3%
未定	20.2%
無回答	0.3%

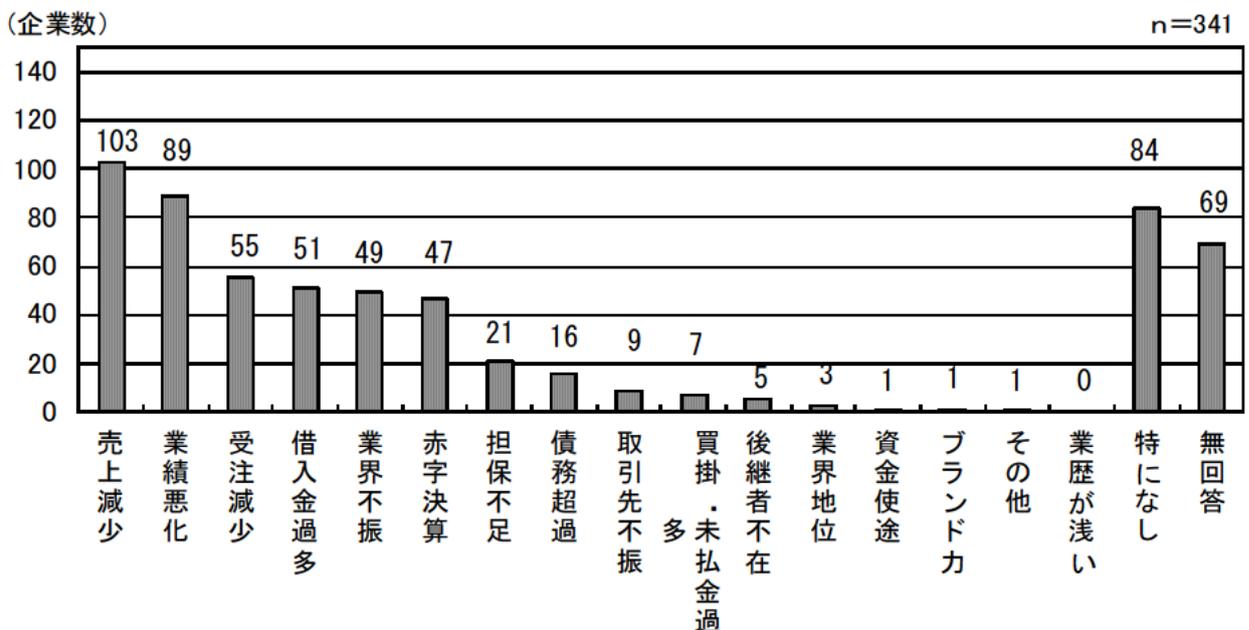
11. 資金調達

(1) 新規の借入を行う必要については、「ある」29.9% (102社)、「ない」46.3% (158社)となっています。

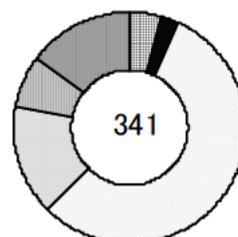


ある	29.9%
ない	46.3%
分からない	18.8%
無回答	5.0%

(2) 借入にあたっての問題については、「売上減少」30.2% (103社)、「業績悪化」26.1% (89社)、「特になし」24.6% (84社)、「受注減少」16.1% (55社)の順となっています。(複数回答可)

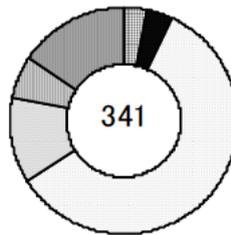


(3) 前期と比べた今期の長期資金借り入れ難度は、「容易」4.4% (15社)、「やや容易」2.6% (9社)、「不変」55.4% (189社)、「やや困難」15.2% (52社)、「困難」7.6% (26社)となっています。



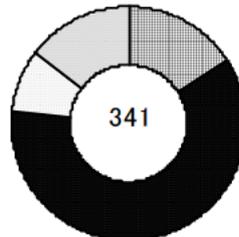
容易	4.4%
やや容易	2.6%
不変	55.4%
やや困難	15.2%
困難	7.6%
無回答	14.7%

(4) 前期と比べた今期の短期資金借入れ難度は、「容易」3.2% (11社)、「やや容易」3.8% (13社)、「不変」58.9% (201社)、「やや困難」12.3% (42社)、「困難」5.9% (20社) となっています。



容易	3.2%
やや容易	3.8%
不変	58.9%
やや困難	12.3%
困難	5.9%
無回答	15.8%

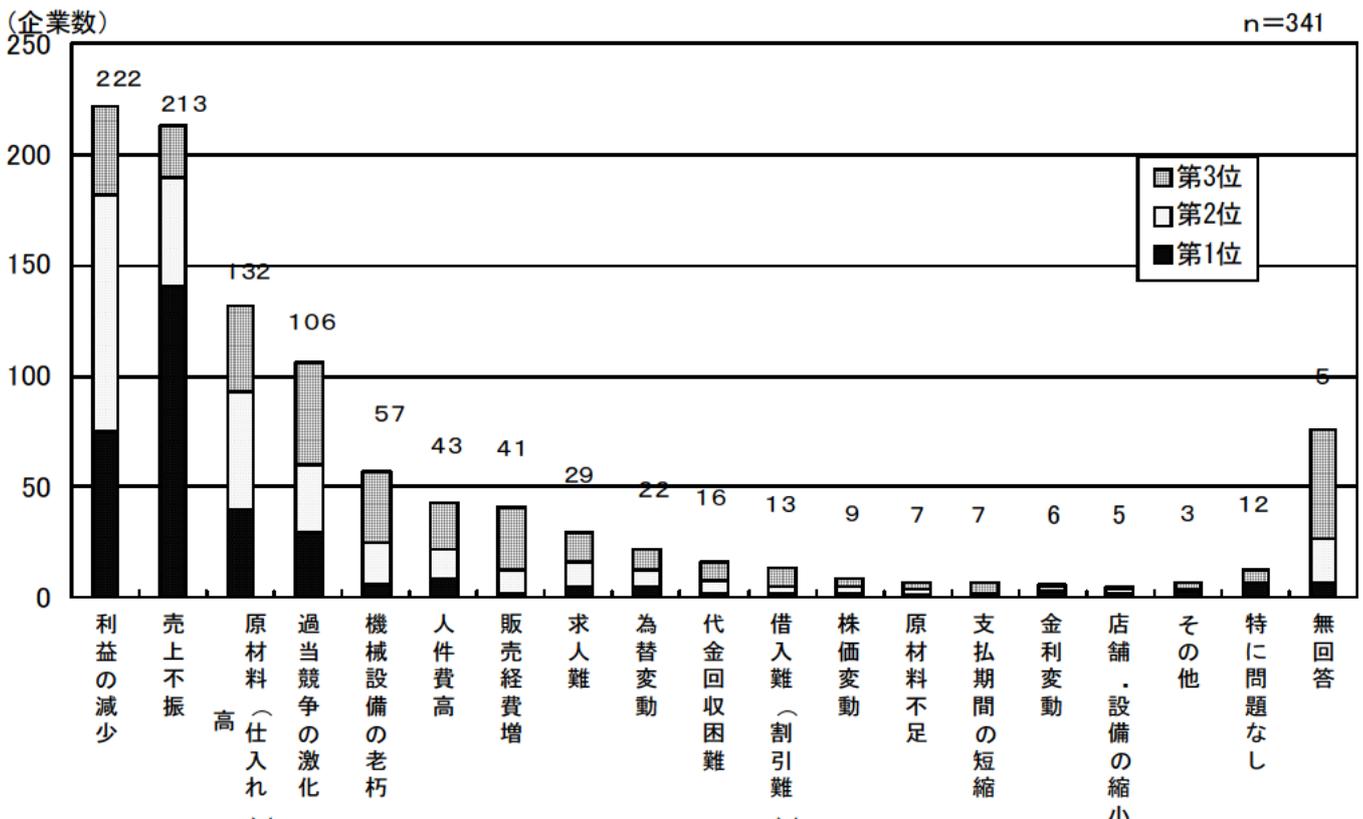
(5) 前期と比べた今期の借入れ金利は、「上昇」15.8% (54社)、「不変」60.7% (207社)、「低下」8.8% (30社) となっています。



上昇	15.8%
不変	60.7%
低下	8.8%
無回答	14.7%

12. 経営上の問題

(1) 経営上の問題点としては、「利益の減少」65.1% (222社)、「売上の不振」62.5% (213社)、「原材料(仕入れ)高」38.6% (132社)、の順となっています。(上位3項目選択)



(2) 効果があると考えられる公共機関が行う企業支援策としては、「減税」62.5% (213社)、「助成制度」34.6% (118社)、「公共事業の増加」31.7% (108社)の順となっています。(複数回答可)

